



**ミネベア株式会社決算説明会**  
**2004年3月期決算**

2004(平成16)年 5月14日

代表取締役社長 山本 次男

# 1. 連結業績実績及び計画

2004年5月14日

1



## 2004年3月期 連結業績サマリー

(百万円)	2003/3期 通期	2004/3期 通期	前期比 伸び率
売上高	272,202	268,574	-1.3%
営業利益	19,352	18,104	-6.4%
経常利益	13,420	13,800	+2.8%
税引前利益	495	12,958	26倍
当期純利益	△ 2,434	6,019	-

**総括** ボールベアリング事業は前進  
電子機器事業が課題を残す

為替の影響 03/3期 → 04/3期  
 USDドル 122.29円 → 113.97円  
 タイパーツ 2.86円 → 2.79円  
 売上高 マイナス88億円  
 営業利益 マイナス4億円

2004年5月14日

2



2004年3月期の売上高は2,686億円となりました。為替の影響がマイナス88億円ありましたので実質的に前期比2%の増収でした。

営業利益は181億円となりました。為替の影響のマイナス4億円を勘案すると、実質的には前期比4%の減益でした。

HDDスピンドルモーターの収益改善が遅れたこと、キーボードの新工場への生産移管の遅れに伴う損失が拡大したことが、営業利益が伸びなかった理由です。

経常利益は、金融収支が15億円改善したため、前期比増益となりました。

当期純利益は、2003年3月期は電源事業等からの撤退に伴う整理損引当金や投資有価証券評価損を計上した影響がありましたが、2004年3月期は特に大きな特別損失の項目はなく、当期純利益として60億円を計上いたしました。

## 通期 セグメント別収益

(百万円)	2003/3期 通期	2004/3期 通期	前期比 伸び率
<b>〔売上高〕</b>			
機械加工品	118,117	111,692	-5.4%
ベアリング関連製品	97,938	94,604	-3.4%
その他機械加工品	20,180	17,089	-15.3%
電子機器	154,084	156,881	+1.8%
回転機器	79,188	86,741	+9.5%
その他電子機器	74,897	70,141	-6.4%
<b>合計</b>	<b>272,202</b>	<b>268,574</b>	<b>-1.3%</b>
<b>〔営業利益〕</b>			
機械加工品	18,519	19,505	+5.3%
電子機器	832	△ 1,400	-
<b>合計</b>	<b>19,352</b>	<b>18,104</b>	<b>-6.4%</b>

2004年5月14日

3



セグメント別の売上高と営業利益は上記の通りです。

## 四半期 セグメント別収益

(百万円)	03/3期	2004/3期			4Q	4Q 伸び率	
	4Q	1Q	2Q	3Q		前年同期比	前四半期比
<b>〔売上高〕</b>							
機械加工品	29,085	28,606	27,059	27,434	28,593	-1.7%	+4.2%
ベアリング関連製品	24,035	23,959	23,169	23,324	24,152	+0.5%	+3.5%
その他機械加工品	5,050	4,646	3,892	4,109	4,442	-12.0%	+8.1%
<b>〔営業利益〕</b>							
電子機器	37,144	37,883	40,193	41,294	37,511	+1.0%	-9.2%
回転機器	19,734	21,458	22,184	22,209	20,890	+5.9%	-5.9%
その他電子機器	17,412	16,424	18,011	19,084	16,622	-4.5%	-12.9%
<b>合計</b>	<b>66,230</b>	<b>66,489</b>	<b>67,252</b>	<b>68,728</b>	<b>66,105</b>	<b>-0.2%</b>	<b>-3.8%</b>
<b>〔営業利益〕</b>							
機械加工品	4,585	4,908	4,270	5,035	5,292	+15.4%	+5.1%
電子機器	△ 929	△ 648	937	△ 503	△ 1,186	-	-
<b>合計</b>	<b>3,657</b>	<b>4,259</b>	<b>5,208</b>	<b>4,531</b>	<b>4,106</b>	<b>+12.3%</b>	<b>-9.4%</b>

2004年5月14日

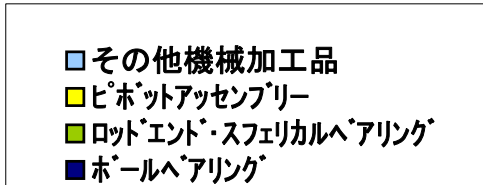
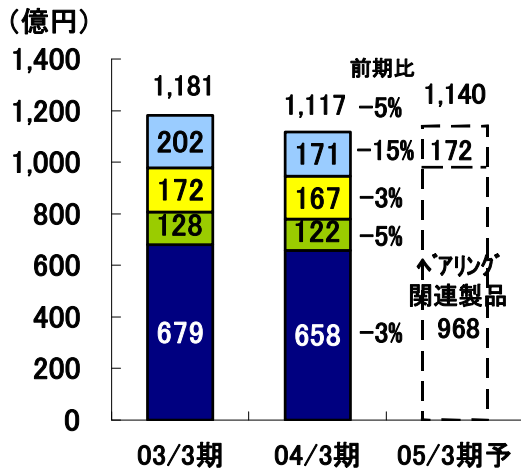
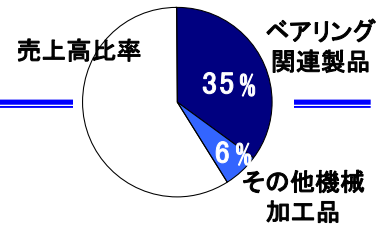
4



営業利益では、2004年3月期は機械加工品セグメントの営業利益が増益となりました。主な要因は、数量効果に加え生産性の一層の引き上げによるボールベアリング事業の利益率が向上したことにあります。

電子機器セグメントでは、通期で営業赤字となりました。第4四半期に11億8,600万円の赤字を計上した主な要因は、スピンドルモーター事業に於て数量減少と単価下落が重なり大幅に収益が悪化したためです。また、キーボード事業もタイから上海への生産移管が遅れ、固定費負担が増加したため厳しい状況となりました。

# 機械加工品セグメント 売上高



## 為替の影響を除いた04/3期売上高:

ボールベアリング	前期比 +1%
ロッドエンド・スフェリカルベアリング	-4%
ピボットアッセンブリー	+4%

- 04/3期のボールベアリングとピボットアッセンブリーの売上高は、為替の影響と単価下落の影響を受けたが、販売数量が大幅に増加。
- 04/3期のその他機械加工品の減収の要因の一つは米国子会社の売却。

2004年5月14日

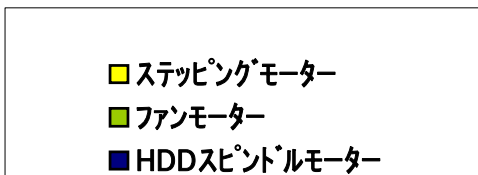
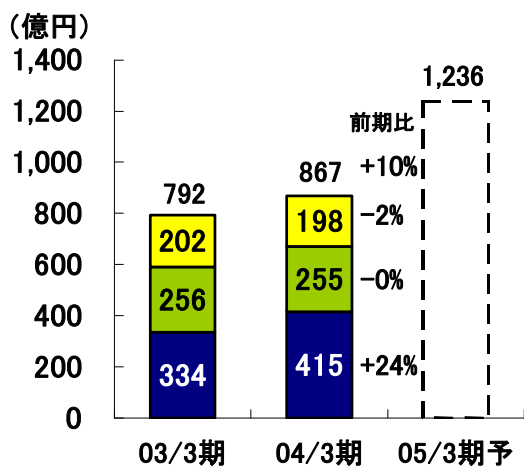
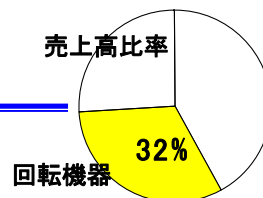
5



ボールベアリングとピボットアッセンブリーについては、販売数量の大幅な増加が為替と単価下落の影響を吸収しました。

その他機械加工品の大幅減の要因の一つは、米国のIMC Magnetics Corpの売却です。

# 電子機器セグメント回転機器 売上高



## 為替の影響を除いた04/3期売上高:

スピンドルモーター	前期比	+33%
ファンモーター		+3%
ステッピングモーター		-0%

- 需要増とシェア拡大により04/3期は、HDD用FDBスピンドルモーターの販売を大幅に拡大。

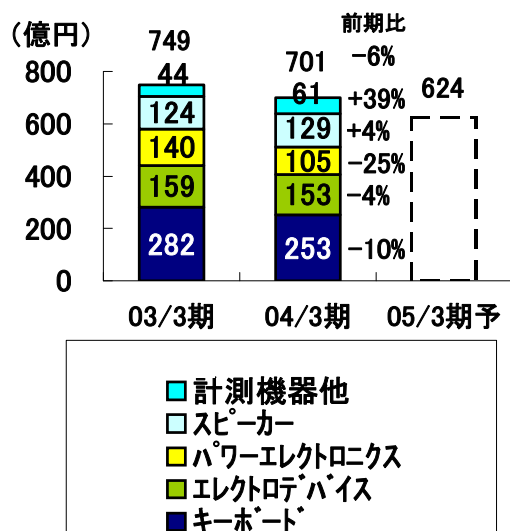
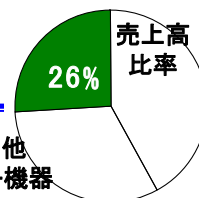
2004年5月14日

6



スピンドルモーターの売上高は、需要増とシェア拡大により大幅に伸長しました。

# 電子機器セグメントその他電子機器 売上高



為替の影響を除いた04/3期売上高:

キーボード 前期比 -3%

- 撤退事業(FDD、電源等)を除くと、その他電子機器部門の売上高は増加、03/3期610億円 → 04/3期621億円。
- バックライト事業が順調に拡大、プラスに寄与。
- キーボードは中国新工場の立ち上げの遅れの影響を受け減収。

2004年5月14日

7

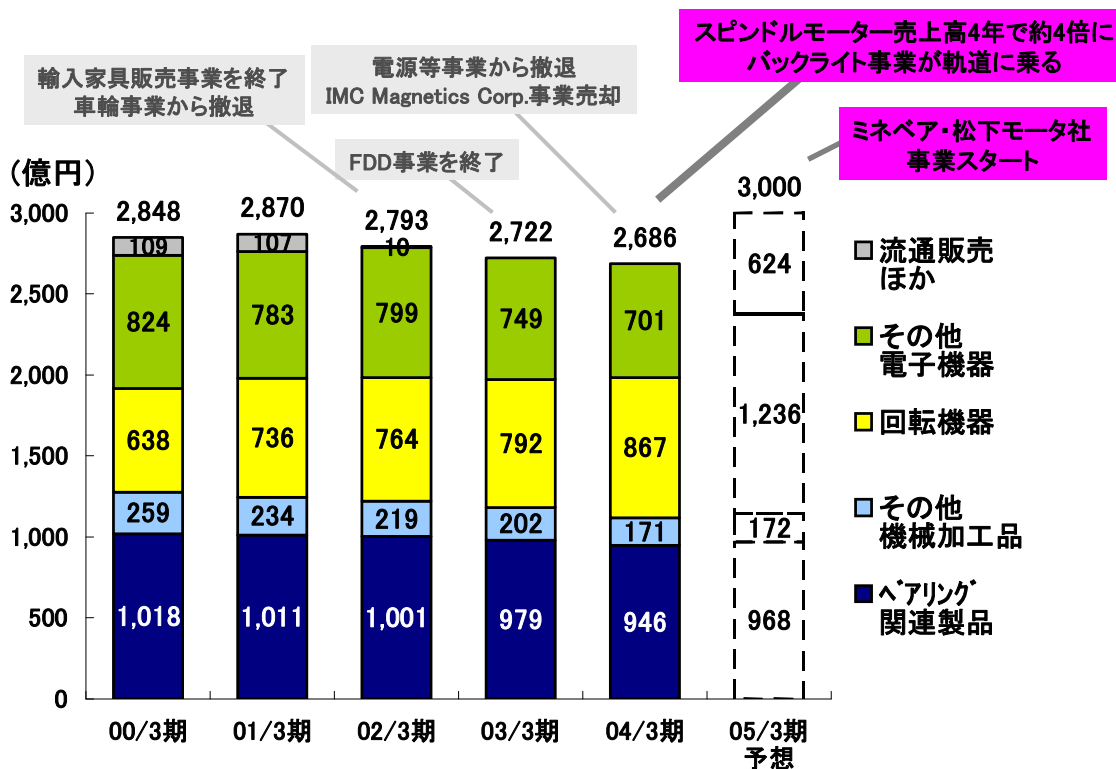


FDDと電源等の事業終了の影響を受けて、売上高は減少しました。

バックライトを中心とするライティングデバイス事業は、大手客先への拡販が順調に進み、売上高は前期の25億円から2004年3月期は90億円近くまで増えました。



# 売上高推移



2004年5月14日

8



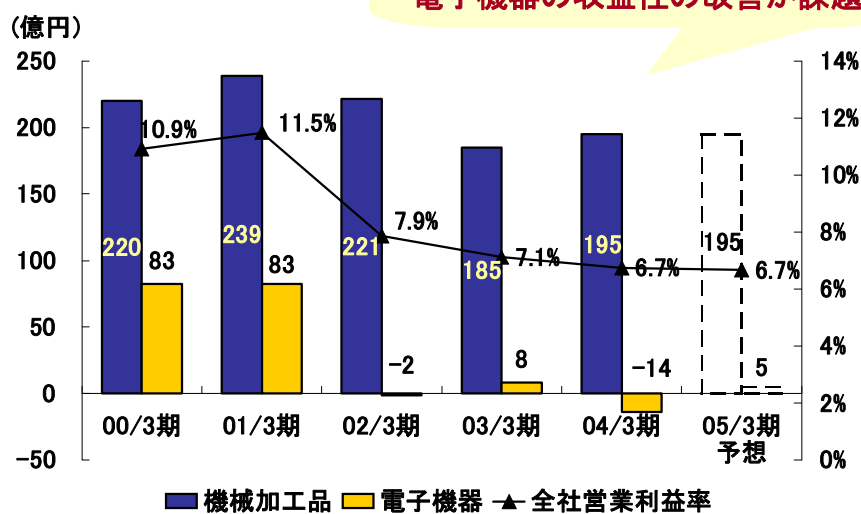
2004年3月期の電源等の事業終了を最後にコア事業に集約されました。

回転機器の売上高は順調に拡大してきました。特に大きく寄与しているのが、スピンドルモーター事業であり、4年前と比較して2004年3月期の売上高は約4倍の415億円まで増えています。

今期から、売上高を拡大できる体制が整ったと考えております。ミネベア・松下モータ社が加わり、回転機器部門の売上高はベアリング関連製品の規模を上回る見通しです。また、その他電子機器部門は電源等の売上高が完全になくなる影響がありますが、バックライト事業が新事業として急速に拡大しつつあります。

# 営業利益推移

機械加工品の収益性が向上  
電子機器の収益性の改善が課題



営業利益率	00/3期	01/3期	02/3期	03/3期	04/3期	05/3期 予
機械加工品	17.2%	19.2%	18.1%	15.7%	17.5%	17.1%
電子機器	5.6%	5.4%	-0.1%	0.5%	-0.9%	0.3%
流通販売ほか	7.5%	7.6%	0.0%	—	—	—
合計	10.9%	11.5%	7.9%	7.1%	6.7%	6.7%

注: グラフでは流通販売ほかの営業利益を省略 00/3期は8億円、01/3期は8億円、02/3期0億円  
各セグメントの営業利益率は外部顧客に対する売上を使用

2004年5月14日

9



ボールベアリングの生産性の向上により、2004年3月期は、機械加工品の営業利益率は17.5%に改善しました。2005年3月期は事業拡大と生産性向上により計画を上回る収益性向上を目指します。

全社的な業績改善のためには、電子機器セグメントの立て直しが不可欠です。2005年3月期は、スピンドルモーターとキーボード事業の業績改善を中心に、電子機器セグメントの黒字転換を果たす決意です。

## 2004年3月期通期 用途別・地域別売上高

### 用途別売上高

	自動車	航空・宇宙	家電機器	情報通信機器	PC及び周辺機器	モータ	その他	合計
売上高比率	7.8%	9.2%	9.9%	10.6%	44.4%	5.4%	12.7%	100.0%
前期比伸び率	+6.1%	-4.9%	-3.5%	+3.9%	-1.4%	-2.1%	-4.5%	-1.3%

### 地域別売上高

	日本	アジア (除 日本)	北米・南米	欧州	合計
売上高比率	25.8%	45.3%	16.9%	12.0%	100.0%
前期比伸び率	-6.0%	+13.7%	-20.6%	-6.1%	-1.3%

現地通貨ベースで  
アジアは前年比約20%増  
北米・南米及び欧州は約10%減

2004年5月14日

10



#### <用途別売上高>

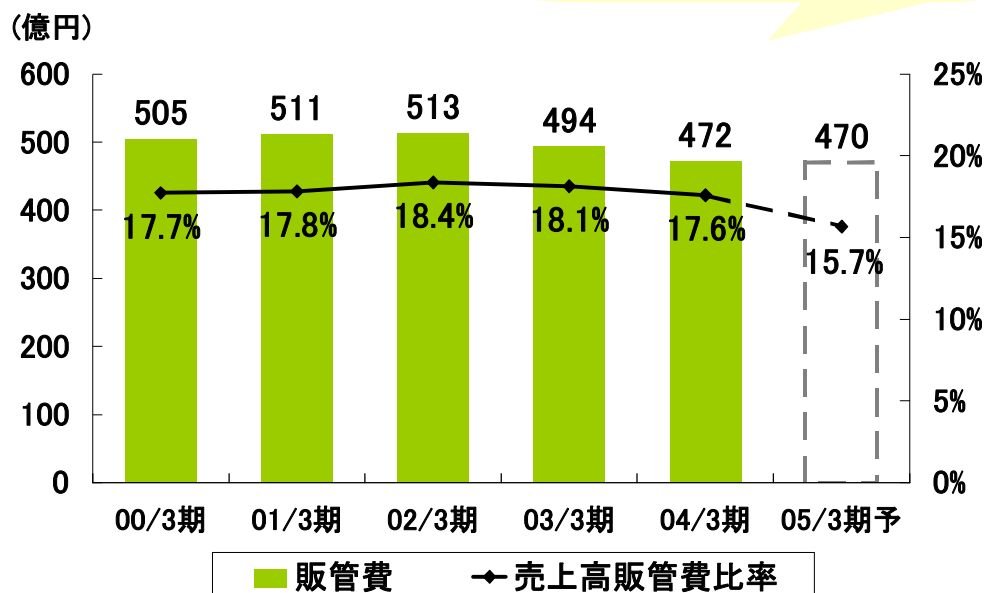
ほぼ全ての主用途において為替と電源等事業の減収による影響がありましたが、全体的に構成は大きく変わっていません。

#### <地域別売上>

海外売上が為替の影響により目減りしていますが、アジア地域での売上高は、日欧米の顧客によるアジアへの生産移管の影響もあり、現地通貨ベースで前期比約20%増加し、引き続き伸びが顕著です。

# 販管費推移

05/3期も実質削減を継続予定。



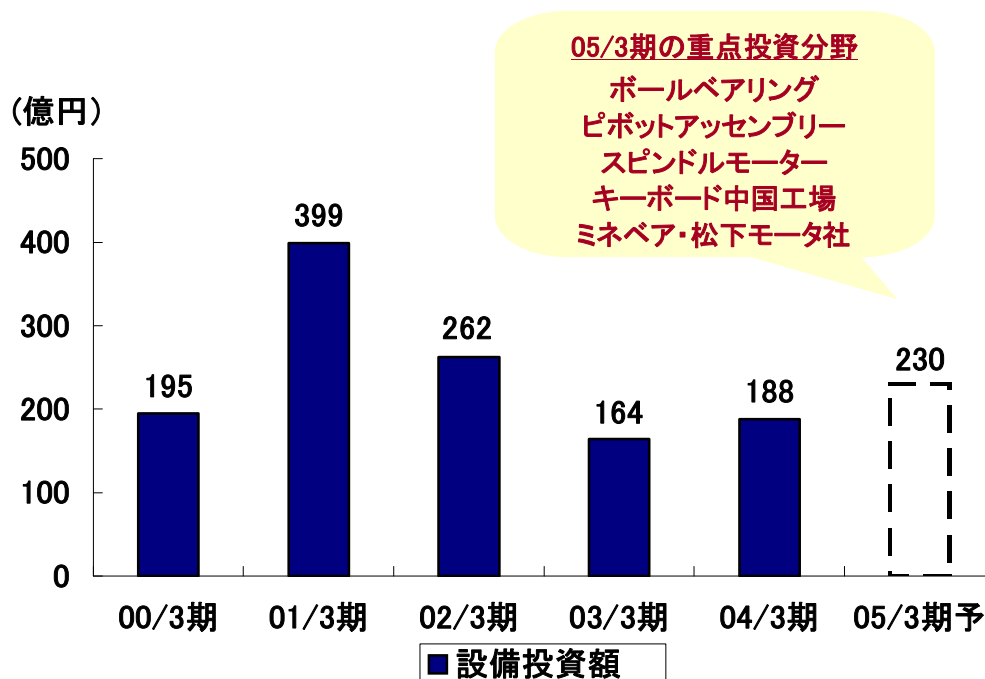
2004年5月14日

11



2004年3月期は、主に物流コスト、人件費と一般経費の見直しにより販管費を大幅に削減しました。  
2005年3月期は、ミネベア・松下モータ社に関わる経費増がありますが、実質的には削減する方針です。

## 設備投資額推移



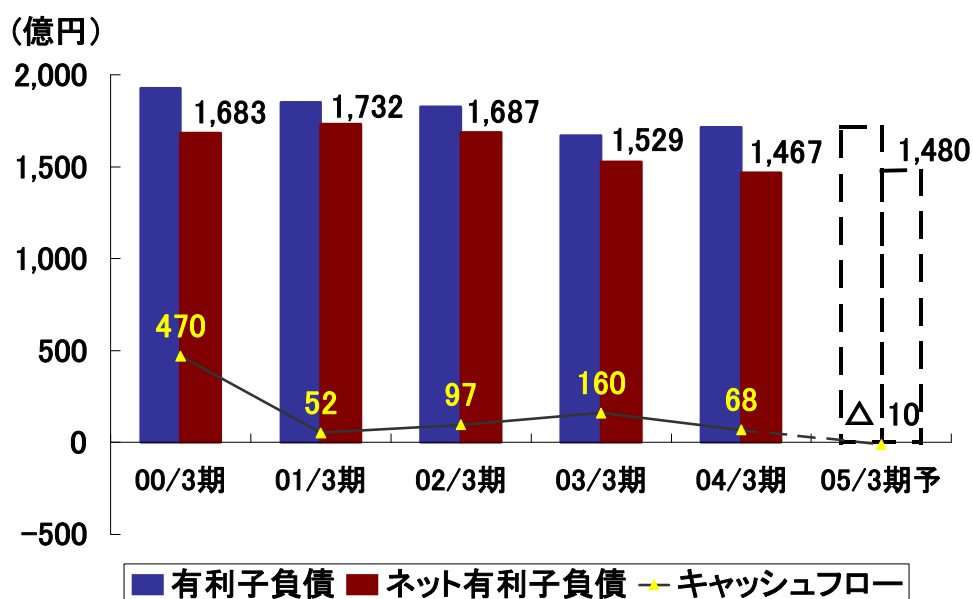
2004年5月14日

12



2005年3月期の設備投資は、主要製品の増産と、キーボードの上海工場、ミネベア・松下モータ社関連の投資として230億円を予定しています。

## 有利子負債推移



2004年5月14日

13



ミネベア・松下モータ社設立に伴う資産・負債が加わることにより、2005年3月末のネットの残高は2004年3月末から横ばいの水準とみています。

## 2005年3月期 連結業績予想

(百万円)	2004/3期 通期	2005/3期 通期予想	前期比 伸び率
売上高	268,574	300,000	+11.7%
営業利益	18,104	20,000	+10.5%
経常利益	13,800	15,500	+12.3%
税引前利益	12,958	14,500	+11.9%
当期純利益	6,019	9,000	+49.5%

2004年5月14日

14



2005年3月期の見通しです。

## 2005年3月期 セグメント別収益予想

(百万円)	2004/3期 通期	2005/3期 通期予想	前期比 伸び率
〔売上高〕			
機械加工品	111,692	114,000	+2.1%
ベアリング関連製品	94,604	96,800	+2.3%
その他機械加工品	17,089	17,200	+0.6%
-----			
電子機器	156,881	186,000	+18.6%
回転機器	86,741	123,600	+42.5%
その他電子機器	70,141	62,400	-11.0%
合計	268,574	300,000	+11.7%
-----			
〔営業利益〕			
機械加工品	19,505	19,500	-0.0%
電子機器	△ 1,400	500	-
合計	18,104	20,000	+10.5%

2004年5月14日

15



2005年3月期のセグメント別収益の見通しです。



## 2. 戦略と見通しについて

2004年5月14日

16



## 経営の戦略課題

---

1. ベアリングとベアリング関連製品事業の一層の強化拡充を図る。

2. 精密小型モーター事業をさらに拡充し、ベアリング関連製品と並ぶ柱に育てる。

3. 全ての製品について高付加価値製品の比率を引き上げると同時に、製品の幅を広げより広範囲な市場に対応できるようにする。

2004年5月14日

17



当社の経営の戦略課題は、従来から掲げている通り、

- (1) 基幹事業であるベアリング事業をさらに強化拡大すること、
- (2) 精密小型モーター事業をベアリングと並ぶ柱の事業に育てること、
- (3) 絶えず、新規市場を開拓し、成長につなげること、です。

## 2004年3月期収益改善のための施策の達成度

---

### 施策6項目

1. ボールベアリング事業の拡大及び強化 …… ○
2. HDDスピンドルモーターの黒字化 …… × → 見直し
3. ピボットアッセンブリーの採算性改善 …… ○
4. その他の電子機器製品事業の収益性回復 …… × → 見直し
5. ファンモーター事業の一層の拡大 …… △ → 継続
6. 電源及び関連事業の終了 …… ○

2004年5月14日

18



前述の経営の戦略課題の下で、2004年3月期は収益改善のための施策として6項目を挙げました。

ボールベアリング事業の拡大及び強化については、大きな成果を挙げることができました。また、ピボットアッセンブリーの採算性改善と電源及び関連事業の終了を果たしました。

しかし、その他の項目については計画を達成できませんでした。

## 2005年3月期の重点課題と施策

- **拡大するボールベアリング市場への対応**  
新規分野への対応を加速
- **拡大する精密小型モーター事業への対応**  
成長に向けた体制の構築とボールベアリング事業とのシナジー効果の拡大
- **電子機器製品事業の早期の収益改善**



### 具体的施策

1. ボールベアリング事業の継続的な拡大及び強化
2. ミネベア・松下モータ社の立ち上げ
3. HDDスピンドルモーターの新製品投入と収益改善
4. 各電子機器事業の抜本的な収益改善
5. ディスプレイ周辺部品の事業拡大

2004年5月14日

19



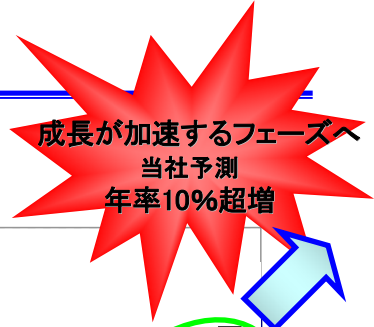
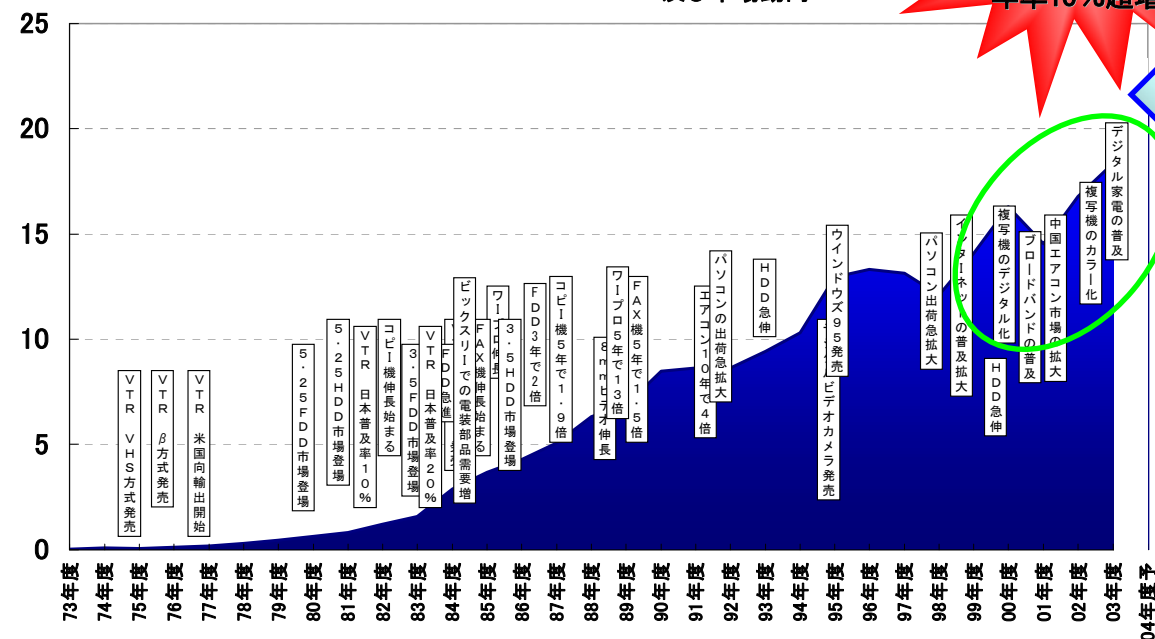
当社の課題と今期のチャレンジは、3つに絞られます。

- 市場が拡大するなか、ボールベアリング事業をさらに拡大強化すること
- 規模を急速に拡大する精密小型モーター事業の成長体制の構築とボールベアリング事業とのシナジー向上を達成すること
- 電子機器製品事業の早期の収益改善

これらを踏まえて、今期は上記の5つの具体的施策に取り組めます。

# ボールベアリング市場の成長性

ミネベアグループ ミニチュア・小径ボールベアリング出荷推移  
及び市場動向



2004年5月14日

20



ここ数年は、複写機のデジタル化やカラー化、ブロードバンドの普及、並びに、中国製の家電の需要増に後押しされて、ミニチュア・小径ボールベアリングが使用される市場や用途が拡大しました。また、ごく最近ではデジタル家電の普及により、新しい需要が生まれて来ています。

このような市場の拡大に後押しされて、ミニチュア・小径ボールベアリングの需要が新たに拡大するフェーズに入ってきたと考えています。今後数年間は年率10%を超える成長が見込めると予測しています。

# ミニチュア・小径ボールベアリング 新たな用途と技術開発

## 用途がさらに多様化

デジタル家電  
デジタル複合機  
白物家電・厨房機器・  
住宅設備  
自動車電装部品

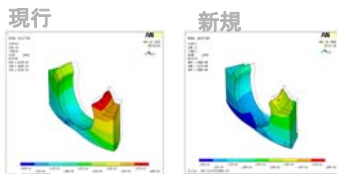
## より一層の高性能化に向けて (要求される特性)

掃除機	: 高効率	⇒ 高速回転
HDD(ピボット)	: 小型・薄型化	⇒ 超小型ベアリング
複写機	: 静電気対策	⇒ 導電性グリース
車載用	: 耐久性	⇒ 温度範囲拡大

## ～ 開 発 事 例 ～

### 高速回転

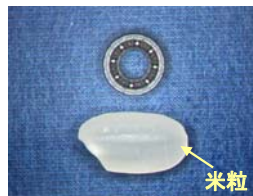
リテーナーを高速回転させたときの  
変形量のシミュレーション



現行に比べ変形量が少ない

### 超小型ベアリング

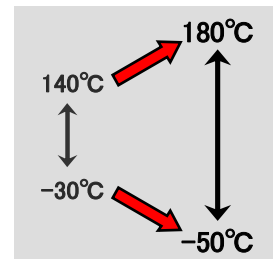
グリース潤滑からオイル潤滑へ



0.85" HDD向けピボット  
アッセンブリー用転がり軸受

### 温度範囲拡大

車載用グリース開発



2004年5月14日

21



新需要に求められる特性に対応するため、当社では継続的な技術開発を実施しています。さらなる小型化の例として、HDDピボットアッセンブリーが挙げられます。しかも、極めて高い精度が要求されることから、鋼球やリテーナーまで全ての部品を一貫生産する当社の強みが真に発揮されることとなります。

# ボールベアリング事業 今後の展開

## 2002年半ばからの事業方針

### 月産1億8,000万個体制の構築

事業規模の拡大の追求  
徹底的な競争力強化

**成果**

販売数量年14%増(直近2期)  
製造コスト大幅低減

月産1億8,000万個体制の定着  
さらに、その次を目指す段階へ

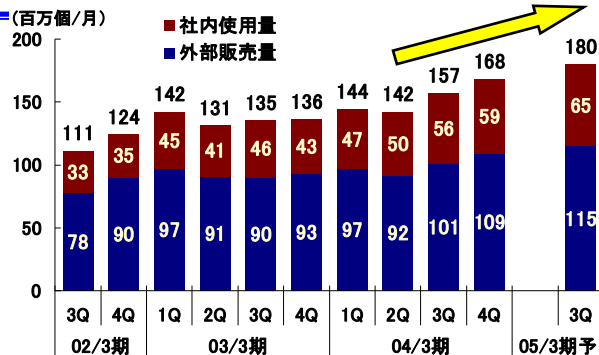
### 1. 販売目標を半年前倒し

### 2. 総合力の強化

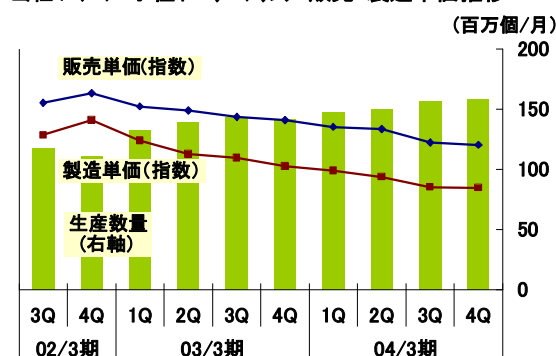
注力分野

- 開発営業の強化
- 中華圏での拡販
- コスト競争力の強化

当社ミニチュア・小径ボールベアリング 販売数量推移



当社ミニチュア・小径ボールベアリング 販売・製造単価推移



2004年5月14日

22



ボールベアリング事業では、月産1億8,000万個の定着と、その次を目指す段階に来ました。

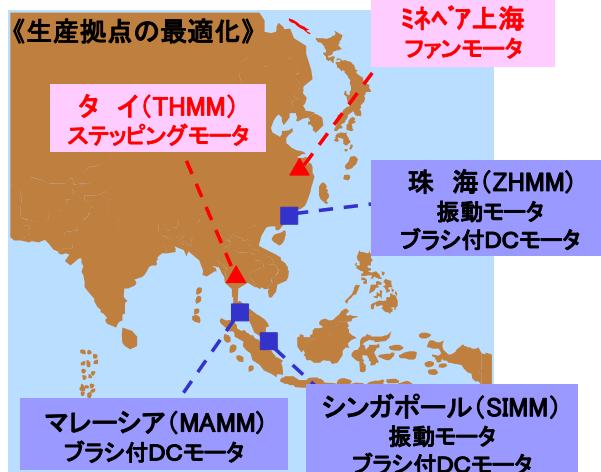
2002年半ばから実施してきました「月産1億8,000万個体制の構築」は2004年3月期着実に成果を挙げました。社内使用も含めた数量は拡大し、2004年3月には1億8,000万個に近い販売を達成しました。製造コストを大幅に低減し、利益率を改善しました。

トップメーカーとしての地位の維持強化のために、今期は、2つの具体的目標に取り組みます。初めに、月1億8,000万個の販売目標を半年前倒しすることにし、今期半ばの達成を目指します。また、あらゆる顧客のニーズに応えるためにさらなる総合力の強化を図ります。

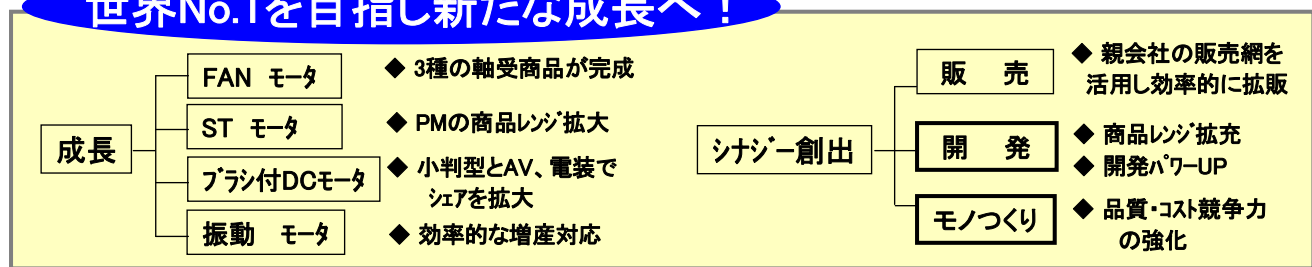
# ミネベア・松下モータ株式会社 事業概要

業務開始日：2004年4月1日  
 本社所在地：東京都目黒区  
 資本金：100億円  
 出資比率：ミネベア60%、松下40%  
 従業員数：9,803名（国内275名）  
 2005年3月期販売計画：725億円（対親会社）

精密小型モータ市場(4商品)で世界第2位  
(金額シェア)の規模の専門メーカー



世界No.1を目指し新たな成長へ！



2004年5月14日

23



ミネベア・松下モータ社が4月1日に発足しました。生産拠点の統合も進み、新しい製品の開発や客先への提案も進んでいます。

現状で新会社はファンモーター、ステッピングモーター、ブラシ付DCモーター、振動モーターの分野で金額的に世界第2位の精密小型モーターメーカーです。合併会社の目的はシナジー創出による企業価値の増大であり、具体的には商品レンジの拡充、開発のパワーアップ、品質・コスト競争力の強化等です。



# ミネベア・松下モータ 商品群

## ファンモータ

■ 市場: PC、家電  
AV機器 等

■ 商品例: DC軸流モータ

- 新設計ファンブレード、モータ設計最適化により風量風圧特性アップした新製品の開発
- ボールベアリング、高性能スリーブ軸受の両軸受仕様の標準装備のシリーズ



## ステッピングモータ

■ 市場: 光メディア機器  
OA機器、デジタルカメラ 等

■ 商品例: リードスクリュー付  
ステッピングモータ

- 用途に合わせてモールドスクリュー、金属スクリューの選択が可能
- 高トルク・高停止位置精度を実現した新製品



## ブラシ付DCモータ

■ 市場: AVメディア機器  
OA機器、電装 等

■ 商品例: ブラシ付DCモータ

- 各種用途に対応した小型・薄型シリーズの充実
- 電装用商品レンジの拡充



## 振動モータ

■ 市場: 携帯電話 等

■ 商品例: 振動モータ

- 特性向上を図りローコストに重点を置いた製品開発
- 小口径、高密度巻線モータによる振動量UP

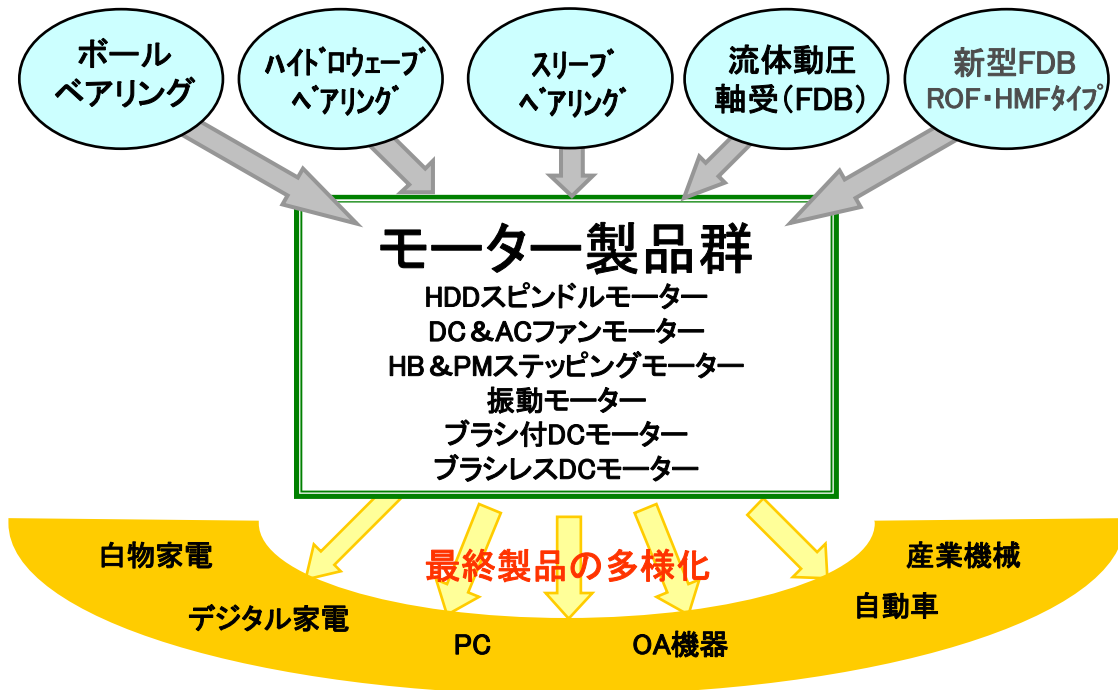


2004年5月14日

24

ミネベア・松下モータ社の拡充された商品群です。

# ベアリングとモーター事業のシナジー効果の拡大



2004年5月14日

25



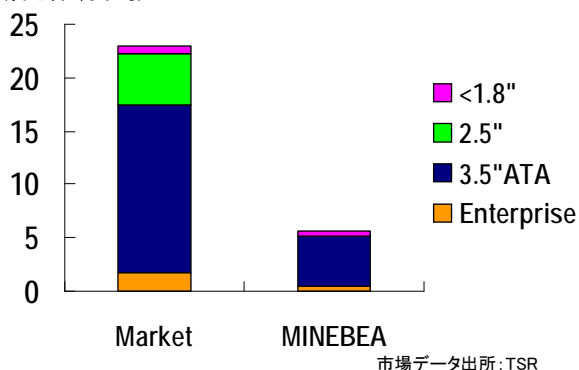
ミネベアのモーター事業は新しいフェーズに入ってきました。それは、ベアリングとモーターのシナジー効果の拡大という意味でもあります。

今回のミネベア・松下モータ社設立と、後述の新型FDBユニットの開発完了により、小型モーター用にあらゆるタイプの軸受が揃い、あらゆるニーズに応えることが可能となりました。

ミネベアグループは、軸受から開発・製造する大手精密小型モーターメーカーとして、ベアリングとモーターの両事業で大きくビジネス展開をしていきます。

# HDDスピンドルモーター 今後の展開

2004年1-3月期  
HDD及び当社HDDスピンドルモーター出荷台数  
(百万台/月平均)



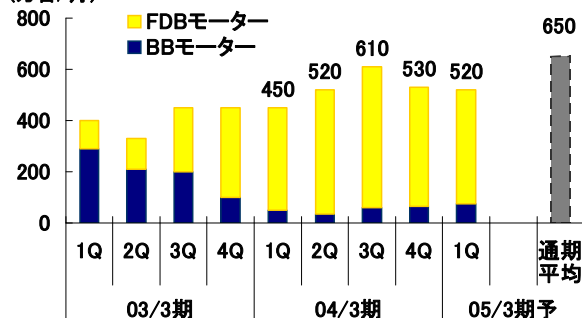
## 当社の課題

- ◆ 採算性改善。
- ◆ 2.5インチ以下のFDBモーター 市場への早期参入。
- ◆ 新型FDBモーター製品の受注。

## 市場動向

- 3.5インチHDDは、高容量が必要とされるデスクPCやデジタル家電向けに引き続き成長見込む。
- モバイル機器向けに2.5インチ及び1.8インチ以下の市場が急拡大。

当社HDDスピンドルモーター販売数量推移・見込み (万台/月)



2004年5月14日

26



HDDスピンドルモーターでは、2.5インチ以下HDD向けFDBモーターの参入と収益性の改善を今期の2大テーマとします。

2004年3月期は3.5インチHDDの需要が旺盛で、その中で当社はシェアを拡大しました。今後も高容量が必要とされる用途で3.5インチHDDの需要は成長が続くとみております。一方で、2.5インチ以下FDBモーターへの参入が不可欠です。従来から開発してきました製品に、新規開発品を加えて、あらゆる角度から参入を目指しているところであります。

# 新型流体動圧軸受ユニット

## ROF

- 3.5”HDD向け中心。
- ボールベアリングの製造技術を使用し、ボールベアリングの製造ラインで生産。
- 従来品比較で性能向上、且つ、コスト低減が可能。



## HMF

- 2.5”以下HDD向けターゲット。
- 日立粉末冶金株式会社と共同開発。
- 焼結材と、動圧発生部に多円弧形状の採用により、小型・薄型モーターに最適。



**2004年5月サンプル活動を開始、  
年末までに両戦略商品の量産開始を目指す。**

2004年5月14日

27



4月14日に新型FDBユニットを発表しました。

ROFはベアリングの技術を生かし、ベアリングの製造ラインで製造できることが最大のポイントです。3.5インチのサイズを中心にサンプル活動を開始しました。

HMFは日立粉末冶金との共同開発品です。焼結材を採用し、ラジアル方向の動圧発生部として軸受部内面全体に多円弧形状を採用したことにより小型・薄型モーターに最適な構造になっています。こちらは2.5インチ以下をターゲットとし、サンプル活動を開始しました。

両製品ともミネベアのHDDスピンドルモーター事業を大きく前進させるきっかけになる新製品として位置付けています。

# ディスプレイ周辺部品

## R&D

光学関連技術  
電子回路技術



## フラットパネルディスプレイ(FPD)

### 周辺部品事業

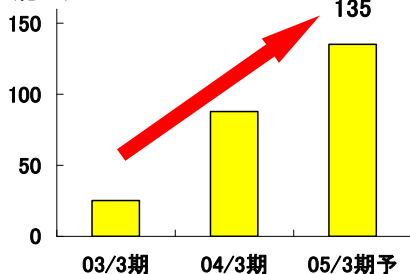
- ◇ フロントライト&バックライト …… LED照明の領域
- ◇ バックライトインバーター …… 冷陰極管照明の領域

## ライティングデバイス事業

動画対応向けに高輝度・薄型・大型製品を新規投入。さらに受注拡大へ。

当社ライティングデバイス事業売上高

(億円)



2004年5月14日

## バックライトインバーター事業

今期、PC用液晶ディスプレイ中心から大型液晶TV用へ展開

### ミネベア製バックライトインバーターの特徴

- 高効率 (低消費電力、低発熱)
- 高信頼性・安全性

自社設計カスタムIC  
自社設計トランスフォーマー  
独自回路設計



バックライトは当社が長年蓄積してきた光学関連技術を応用した製品です。この光学関連技術に電子回路技術を合わせてディスプレイ周りのR&Dを進めてきましたが、今後、バックライトインバーターの売上増が期待されています。従来はPC用液晶ディスプレイ等を中心に事業を展開してきましたが、2005年3月期には大型TV向けに参入する目処がつかしました。

今後フラットパネルディスプレイのマーケットが大きくなってゆく中で、当社では、LED照明の領域はフロントライト及びバックライトで、冷陰極蛍光ランプの領域はバックライトインバーターでの両面アプローチをしていく考えです。ディスプレイ周辺部品を当社の柱の事業の一つになるようビジネス展開をしていきます。

# 光学技術を中心にした開発技術

## フラットパネルディスプレイ(FPD)市場

製品

液晶バックライトインバーター  
液晶バックライト・フロントライトアッセンブリ

## 光学技術

光学設計  
光学シミュレーション  
光学薄膜技術  
光学部品設計  
リソグラフィ技術

樹脂成型技術  
精密金型加工技術

電子回路技術  
パワーエレクトロニクス技術

製品

光学式センサー トルクメーター  
軸力センサー

## 産業用機器市場

ナノテクノロジー  
光学・磁性材料技術  
構造解析・熱解析技術  
バックアップ技術

2004年5月14日

29



ライティングデバイスなどの基礎技術となっています光学技術を中心とした当社の開発技術は、上記の通りです。

# ミネベア株式会社決算説明会

<http://www.minebea.co.jp/>

上記説明会で述べられた内容のうち歴史的事実でないものは、一定の前提の下に作成した将来の見通しであり、また、それらは現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断にもとづいております。  
実際の業績は、さまざまな要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。  
実際の業績に影響を与える重要な要素としては、(1)当社を取り巻く経済情勢、需要動向等の変化、(2)為替レート、金利等の変動、(3)エレクトロニクスビジネス分野で顕著な急速な技術革新と継続的な新製品の導入の中で、タイムリーに設計・開発、製造・販売を続けていく能力、などです。但し、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。  
本資料に掲載のあらゆる情報はミネベア株式会社に帰属しております。手段・方法を問わず、いかなる目的においても当社の事前の書面による承認なしに複製・変更・転載・転送を行わないようお願いいたします。

2004年5月14日

30

